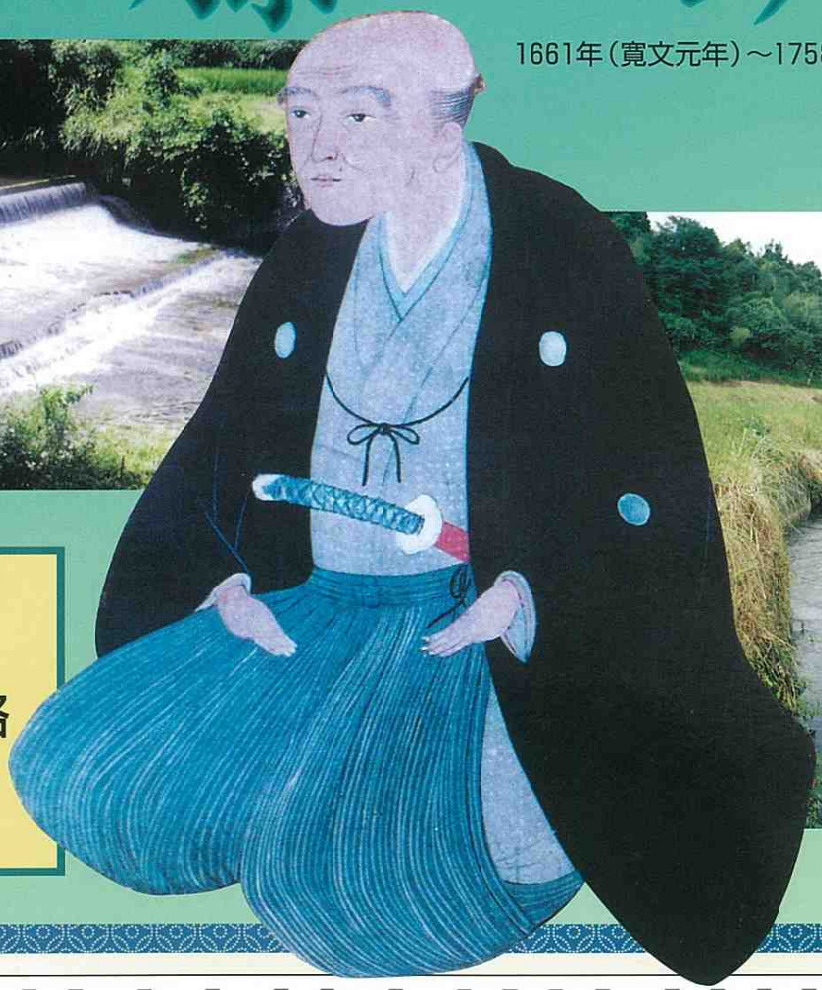
生涯を井路開発に捧げた「郷土の大恩人」

農業水利偉人伝2

工藤三助（くどうさんすけ）

1661年（寛文元年）～1758年（寛暦8年）

世利川井路水源



大竜井路の流れ

主な水路開削事業

- 大竜井路（おおたついろ）
- 鑰小野井路（かぎおのいろ）（現世利川井路（せりかわ））
- 提子井路（ひさごいろ）

工藤三助の生涯

一六六一年（寛文元年）～一七五八年（寛暦八年）　没年九八歳（数え年）

年号	元号	年齢	生涯	工事事績
一六六一年	寛文元年	1	誕生	
一六七六年	延寶三年	16	大竜井路開渠決意	
一六七九年	延寶六年	19	嬢男理右衛門生る	
一六八八年	元禄元年			28 発見 大竜井路水源地
一六八九年	元禄二年	29	となる 谷村手永惣庄屋	
一六九八年	元禄十一年	38	となる 大竜井路普請奉行	38 大竜井路着工
一六九九年	元禄十二年	39	10石加増	39 大竜井路完成
一七〇一年	元禄十四年	41	妻妙証　没	41 野井路水源を発見 岡藩領内に鑰小
一七〇三年	元禄十六年	43	惣庄屋を譲る	43 奉行となる 鑰小野井路普請
一七〇七年	寶永四年	47	鑰小野井路完成	47 鑰小野井路完成
一七一五年	正徳五年	55	父理右衛門　没	
一七二三年	享保八年	63	九州大地震あり	
一七二四年	享保九年	64	となる 提子井路普請奉行	64 提子井路着工
一七二七年	享保十二年	67	孫が惣庄屋を継ぐ	
一七二九年	享保十四年	69	曾孫辨助誕生	
一七三三年	享保十七年	72	蝗虫発生・大飢饉	
一七三五年	享保二十年	75	長男　没	
一七四八年	寛延元年	88	妻　没	
一七五八年	寛暦八年	98	四月四日　没	

大竜井路　28 ---- 38 ―― 39

鑰小野井路　41 ---- 43 ―― 47

提子井路　64 ――――――――――――

大竜井路

38歳～39歳
［元禄11年～元禄12年、1698年～1699年］

かつて、大分県内には、久住、野津原、鶴崎、佐賀関で2万石の肥後領がありました。
工藤三助の住んでいた谷村手永（現、挾間町谷周辺）は、この肥後領の中にあり、山が多く、田も条件の悪い所であったそうです。
三助が15歳で水路開削を決意し、28歳で水源地を見つけ、38歳で起工し、39歳で完成させた水路です。
（※手永とは、肥後細川家が、地方（じかた）を支配するために置いた組織の名前です。1つの郡に幾つかの手永を置きました。手永の支配責任者は「惣庄屋」と呼ばれました。）

大竜井路の流れ（笛ヶ倉）

大竜井路取入口（野畑）

大竜井路悠久の流れ

大竜井路の概要

水源は、野畑熊群山南麓の渓流です。

水路の長さ　6,000m
かんがい面積　開田96ha　古田29ha

計画では、現水路沿いを潤し、芹川を渡し、竜原村を潤し、更に谷村に注ぐはずでありましたが、水量が少なく、思いを完全に達することができなかったようです。
当時は「大龍井路」となっていましたが、現在は「大竜井路」と表示されていますので、本書では「大竜井路」で統一表示しました。

三助エピソード❶ 「奥さんを水源のある他領よりもらう」

三助に用水の術を伝えたと考えられるのが、最初の妻の妙証（法名）の義父である辺春重継でした。三助は妙証との結婚により、府内藩領武宮村を自由に訪れることができました。このことにより、大竜井路の水源を府内藩野畑村熊群山麓渓谷に、容易に求めることができました。水源地を選定したのが、元禄元年（1688年）で、三助28歳のことでした。他領のため、着工までこれより10年かかりました。

鑰小野井路

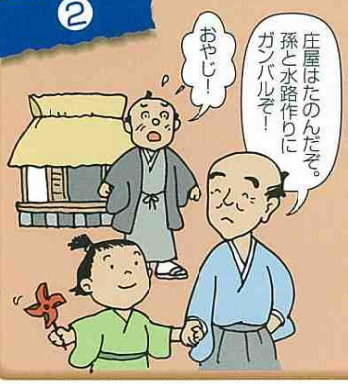
43歳～47歳
［元禄16年～寶永４年、1703年～1707年］

（現）世利川井路の１部

現世利川井路　取入口

大竜井路の完成の後、三助は苦心して鑰小野井路の水源を発見します。（41歳）
同じ肥後領の野津原手永は標高が高く、畑地の多い所でした。水源さがしには幕府領と岡領をさがさねばなりませんでした。
さらに、熊本の藩庁普請奉行役所の了解が下りず、三助は奉行所の玄関にじっと待ったそうです。待つ事3旬（30日）にして、藩の許可が下りたそうです。

三助エピソード②「孫と一家を新たに興す」



三助が惣庄屋であった谷村手永の開田、かんがいは、大竜井路の開通により進みました。しかし、同じ熊本領の野津原手永には水が乏しく、畑地が多かったため、三助は、肥後藩に幕府領と岡藩への交渉を依頼しました。難工事が予想されたので、谷村手永惣庄屋の職を嫡男に譲りました。三助43歳のときでした。

不動岩供養塔

三助エピソード③「釣竿測量、天秤測量」

鑰小野井路の水源を、湯原川（芹川）に求めなければなりませんでした。しかし、水源と肥後領野津原手永の間には、幕府領と岡領がありました。
三助は、水源を求めて、幕府領、岡領に入りました。他領で行う測量なので、秘密裡に行いました。行商人に変装し、天秤棒に測量目盛を刻み、それを使って測量したと伝えられています。
元禄14年（1701年）、三助41歳の時に岡領直入郡湯原組鑰小野村湯原川畔に到達したのです。この間、夜になって火縄を灯して高低を測ったり、青竹に白い紙片をつけて並べたりしたそうです。

※現在の世利川井路は、鑰小野井路と芦瀬井路が一緒になったものです。

大竜井路の取入口に刻まれた
元禄11年の文字

大分市近郊の農業用水路図

今も水量豊かな大竜井路

野津原三渠の碑（安政6年 1859年建立）

加藤清正が肥後の大守となると、天草を返還し、豊後2万石を求め、久住、野津原、鶴崎、佐賀関が肥後領となりました。

この鶴崎から、熊本への街道沿い（野津原町湛水）に、「三渠の碑」はあります。嘉永6年（1853年）に建てられたものです。勝海舟が坂本龍馬とともに、1864年に街道を通り碑を見たことを、「海舟日記」の2月18日に記しています。

工藤三助の描いた鑰小野井手絵図
・取入口部は、まだ左に図面が続く　　・右端に谷村の文字がある

難工事ヶ所であった「不動岩」
現在では、サイホンで谷を横断しています。

工藤三助が彫らせた不動明王像（西福寺）
鑰小野井路工事の完成を感謝して、工藤三助が彫らせたものです。

三助エピソード④「不動岩」

鑰小野井路掘削の時、水源より1里（4km）下に巨岩があり、非常に硬く、一日割り得る石屑僅かに弁当箱を満たすほどだったそうです。三助は、自刃を覚悟し不動明王を念じました。すると夢の中で岩を焼き水を注いで破砕するよう不動明王に告げられて、岩を砕くことができました。このため、この岩場を不動岩というそうです。三助は完工後、この岩場に不動明王を祭り、鑿（のみ）や槌（つち）を埋めて槌塚（つちづか）をつくりました。

左の資料は、普請奉行 工藤三助から、郡奉行 小野治兵衛（おのじべえ）に工事進捗状況を報告したものです。

覚……
……
……
……
……
……
……
……
……工藤三助㊞
小野治兵衛殿
寶永二年
野津原新井手……

4つの現場に区切って工事していましたが、その各現場の工事進捗状況を説明しています。
小野治兵衛と相談しながら事業を行ったそうです。

提子井路

64歳～［享保9年～中止、1724年～中止］
死後　［安永2年～安永5年、1773年～1776年］完成

現在の提子井路の流れ

鑰小野井路が完成しましたが、まだ、かんがい水が不足していました。三助は、野津原手永栗灰村の提子淵の滝上に新井手を掘ることを計画し、藩に願い出ました。藩から認められ、享保9年（1724年）に着工しました。三助64歳でした。しかし、この年が肥後藩の大凶作の年となったため、工事中止となってしまいました。こうして、この水路は三助生存中は工事中止のままでした。

寛暦8年（1758年）に三助が98歳で亡くなって15年後の安永2年（1773年）、阿鉢村の佐藤夫四郎、佐藤清兵衛等により工事が再開され、安永5年（1776年）に完成しました。

このため、提子井路の功労者は工藤三助・辨助（曾孫）と、佐藤夫四郎、佐藤清兵衛となっているのです。

この水路についても、延岡領竜原村を通らねばならず、延岡藩、竜原村の人達との協議が必要だったようです。そしてこの水路により谷村全体に水が十分通水されるようになったのです。

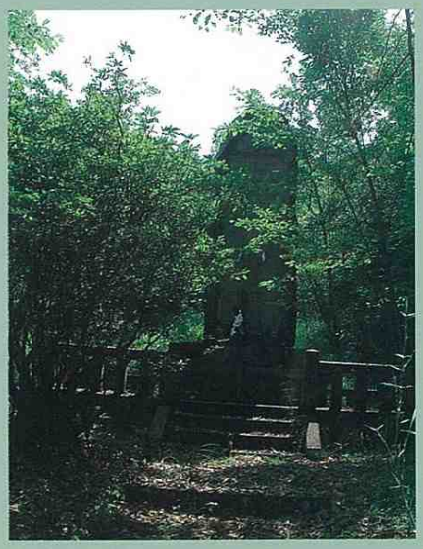
三助の偉業をたたえて

提子井路には多くの記念碑があります。

1番奥にあるのが、「提子井路の碑」です。三助が成し遂げられなかった提子井路を完成させた佐藤清兵衛の第5世、元代議士佐藤庫喜氏の建てたものです。

渋谷の忠犬ハチ公の飼主で有名な上野英三郎先生の書かれた文章です。

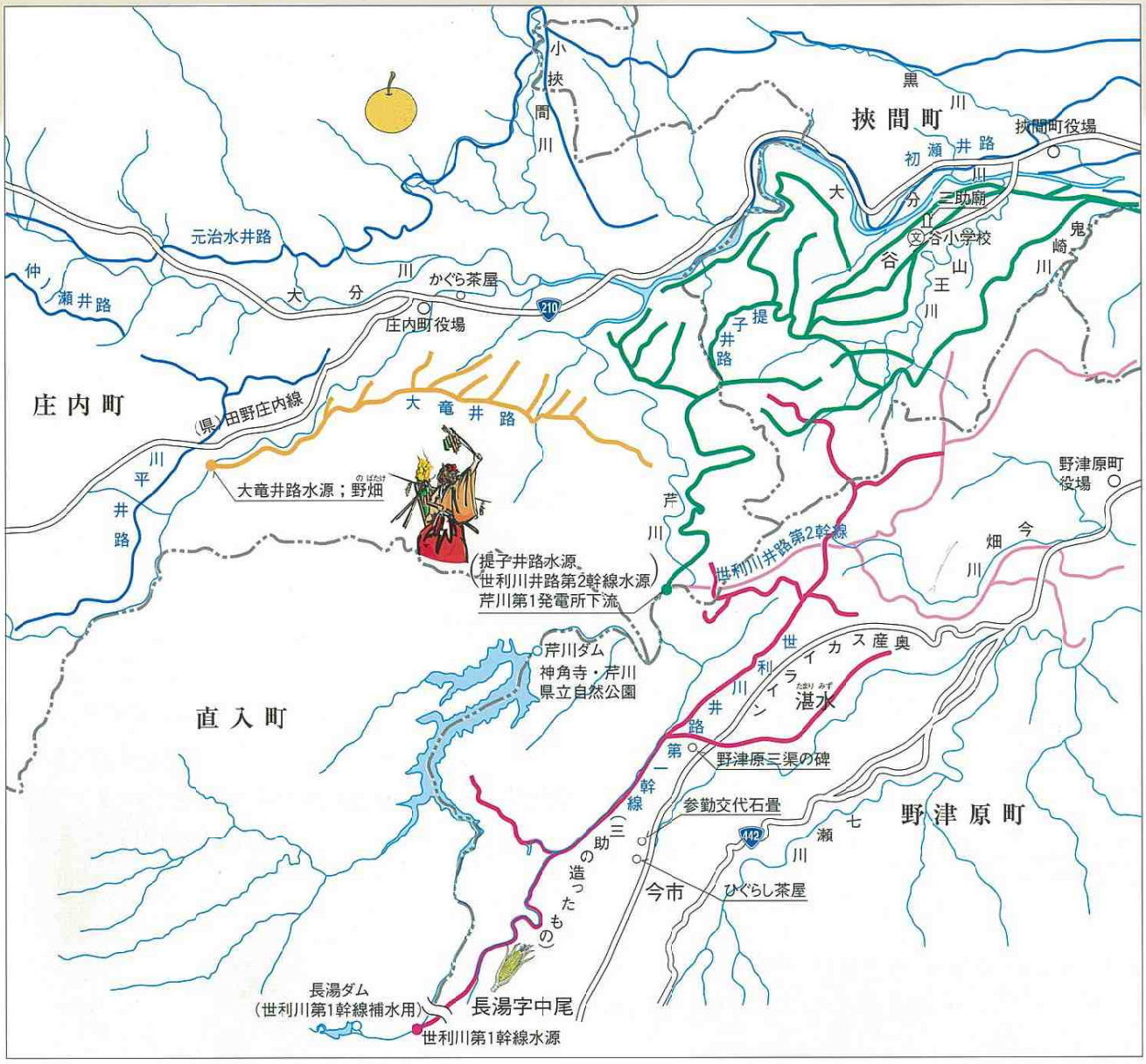
右下は、三助の墓の近くにある谷小学校の校庭にある頌徳碑です。



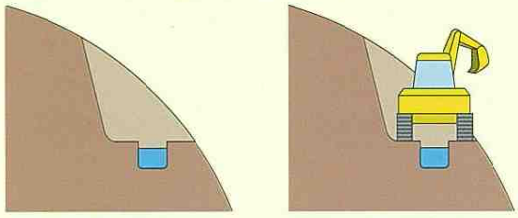
提子井路の碑

上野英三郎先生による碑文

谷小学校校庭にある頌徳碑



提子井路横断図



山腹の水路

改修工事も機械がやっと入るくらいです。

野津原三渠　詳細位置図

- 大竜井路
- 世利川井路
- 提子井路

三助の墓は、谷小学校の東にあります。

墓碑には「定水院殿覚翁休山大居士　宝暦八戊寅歳四月初四日　俗名工藤三助兼時　世寿九十有八歳」となっています。

三助の法名は、当初「定水軒覚翁休山居士」でしたが、大正5年に従五位が三助に贈られたため、法名も「定水院殿覚翁休山大居士」となりました。

「三助廟」　谷小学校東にある三助の墓

工藤三助の人となり

工藤三助の生涯を一言でいえば「不可能を可能にした男」といっていいのではないでしょうか。
人となりは、体躯短小、巨頭にして無髯（ひげがないこと）、人となり聡明にして精悍、深く保井算哲一派の数理の学を究めていたそうです。
本名を谷村理右衛門三助といい、三助の四代の祖工藤掃部之助祐康は、九州の関ヶ原といわれる石垣原の戦いで戦死した武将でありました。三助自身も武士の心を持っていたようです。
ちなみに、墓碑の俗名は工藤三助兼時となっています。

工藤三助と水恩祭

毎年、田植え前になると、大竜井路、世利川井路、提子井路の水恩祭が催されます。この祭りに三助の子孫の方が招待されます。
野津原、庄内、挾間に広がる三助の拓いた水を、田に導く前に感謝を捧げる祭りです。
多くの困難を、長い年月をかけて解決した工藤三助翁の不屈の心に、地域を挙げてこれからも敬意を払い続けてゆくことでしょう。

この不動明王像は、村人が崇拝していた不動明王が、鍋の前から西福寺に移動したので、村人の願いにより鍋の前に再び作られた不動明王です。

■工藤三助のその他の仕事

三助翁は井路工事に名高くなっていたので、この三井路の他にも多くの工事に携わっています。

- 肥後国葦北郡水俣村水路開削（藩命による）
- 阿蘇郡小国郷治水事業（藩命による）
- 1725年（享保10年）湯平村山津波復旧工事
  湯平温泉石畳、熊野坂に石橋、熊野坂登り口に供養塔

■参考文献　挾間町誌
日本農人伝「釣竿測量」
工藤三助

■協力機関　世利川井路土地改良区
提子井路土地改良区
大竜井路土地改良区
挾間町立陣屋の村
歴史民俗資料館

■作成　大分県農林水産部 農村計画課
■印刷　(株)有明印刷　大分支社